

2016年度 長期滞在型・ロングステイ観光学会 分科会について

1. 「海外ロングステイの経験者からインバウンドロングステイに対する提言」代表申請者 山田 美鈴（ロングステイ研究所）

海外ロングステイ経験者に対して開始前、開始後に分けて現在の調査統計以外の具体的項目を挙げて調査を実施する。日本人が異文化で日常生活するときの不安、不満、日常の過ごし方等の実態調査を実施し、その結果をもとに海外から長期滞在、観光を目的として来日する外国人の対応マニュアルを作成する。

また、日本語学習をしている海外（今回はマレーシアの学生最大1800人を対象）の学生向けにも日本に関するアンケート方式による意識調査を実施し、その若年層のニーズを把握する。
2. 「ロングステイと旅行医学（医療・看護・介護・リハビリテーション）」代表申請者 溝尾 朗（JCHO 東京新宿メディカルセンター）

海外ロングステイヤーの不安に感じることの第1位は医療である。その不安を少しでも和らげるためには、セルフチェック、セルフケア、セルフメディケーション（セルフケアで総称）を身に付けること、現地の正しい医療情報を入手し、必要な場合には、現地の医療機関を上手に利用することが肝要である。本分科会では、セルフケアの方法を発信するとともに、現地のアップデートな医療機関の情報、利用できる薬局とOTC医薬品の情報を収集し、その結果を会員に提供することで、海外ロングステイの発展に寄与する。また、気候の良い東南アジアを中心に展開している高齢者施設やリハビリテーションの情報を収集し、日本人がそれらを利用する可能性について探る。
3. 「古民家ロングステイ普及促進」代表申請者 井上 幸一（一般社団法人全国古民家再生協会）

古民家ロングステイを通して、「日本文化の保存と継承促進」、「資源・環境保護促進」、「インバウンドを見据えた優れた日本文化の発信」、「古民家滞在を通じたロングステイの普及と上記の効果効能の開発・普及」を検討する。
4. 「長期滞在インフラ構築研究」代表申請者 旭岡 叡峻（(株)社会インフラ研究センター）

日本の観光産業にとって、長期滞在のインフラの整備と確立は最重要課題である。特に海外の観光業と競合する上で、今後ますます日本における長期滞在のインフラ（ハード、ソフト両面）の充実は緊急である。そこで、長期滞在インフラの今後の未来像とどう構築するべきか考えていく。